

## 山口県公立大学法人評価委員会（第45回）の審議要旨

- 1 日 時 令和5年8月30日（水） 13:30～15:30
- 2 場 所 山口県立大学北キャンパス3号館3階 C508教室
- 3 出席委員 成富委員長、小野委員、首藤委員、早川委員（委員長以外50音順）
- 4 審議事項 1. 令和4年度に係る業務実績に関する評価について  
2. 第4期中期目標（素案）等について  
3. 公立大学法人山口県立大学が行う出資等に係る不要財産の納付に関する意見について
- 5 審議要旨 [ ● 委員 ◆ 委員長 □ 法人 △事務局]

## (1) 令和4年度に係る業務実績に関する評価について

- 卒業生のスキルアップや県内専門職のボトムアップを目的として、卒業生のキャリアアップ研修をされており、人数も多く、皆さん満足という結果も出ている。これは県立大学の特徴的な部分になるのか。
- 本学は、資格の取得ができる学部・学科が多いため、他の大学と比べると、学部、学科の構成から、少し多く研修を行っているかもしれない。
- 卒業生のキャリアアップ研修が、県立大学の特徴的な取組となっているのであれば、地域に就職した卒業生が地域で学べる好事例となっていることから、ブランディングのためにも、キャリアアップ研修を充実させるプロデュースをしていくと良いのではないだろうか。
- オープンキャンパスに参加した生徒や教員は、学生がアシスタントとして運営側で活動していたことを、非常に高く評価していた。こうした、学生が大学運営に参画して、コマercialしていくことは、とてもインパクトのあるPRとなることから、この取組を一層進めていくと良いと思う。
- 県立大学で培われているPBLの取組を、高校側に出前講座として案内するなどしていただけると、学校現場としてはとても有難いし、県立大学を売り込む良い機会にもなるのではないだろうか。

- 高校訪問を密にやったところ、探究学習の支援をしてほしいという意見を多くの高校からいただいている。県内の高校との連携を強めていくことで、ニーズに応えていけるのではないかと考えている。
- 県内就職率を高めていくために、学生は有名な企業に就職したいという気持ちがあるかもしれないが、有名な企業ではなくても、業績が良い企業はたくさんあることから、そうした企業の魅力を伝えていくなどの取組を試みてはどうだろうか。
- PBLを充実させるなどして、企業等との十分なコミュニケーションの中で、お互いのマッチングで県内に就職してもらいたいという方針で活動している。
- ◆ 学生による地域貢献や大学運営への参画については、学生の意識を早い段階で把握できれば、地域や企業のニーズ、学内の研究シーズなどに対して、より一層、取組が進んでいくのではないだろうか。
- 今後は、高校生が探究型学習の中で地域の課題に取り組むという機会が多くなると思うが、そうした意識を高校時代からしっかり持っていただく仕組みを作っていく必要があると考えている。
- 附属高校から県立大学に来てPBLに取り組まれたりすると思うが、地域と結びついて地域の課題解決に取り組んでいる高校が本当に増えてきているので、そういった高校とも連携し、県立大学からアドバイスをいただくようなこと等があれば、県立大学に進学して、さらに続きを試みよう、深めてみようという生徒や学生が増えるのではないか。
- 地域との繋がりを強くするというところでは、先日、デジタル・グリーン等の成長分野に関する学部の設置等を支援する国の補助事業への申請に対する採択がなされた。大学でメタバース空間を設置して、高校生がインターネットでアクセスして、大学の講義を受けたり、オープンキャンパスを体験するというようなことができるようになるので、地域と繋がる機会を増やすことができると考えている。
- ひとつづくり財団がカタリバというNPO法人とタッグを組んで、マイプロジェクトという高校生を対象とした全国規模の取組を行っている。昨年度、県内大会を開催し、知事にも御覧いただいたという取組がある。できれば、県立大学の学生や教員にも関わっていただけると、さらに良くなっていくのではないかという気がしている。
- カタリバの取組を山口県でスタートするとき、本学の学生がモデレーターという形で参加させていただいたことがある。学生自身も刺激を受けたようであり、高校生に対する取組としても非常に重要と考えられることから、本学としても、しっ

かり関わっていきたいと思う。

- 地域連携に関しては、企業がどういう連携を求めているのか、どういう人材を求めているのか、ということを大学に知っていただきたい。

また、県立大学の学生が就職する企業は、ある程度、業種・業態が決まっていると思うので、山口県全体を包括して調査するというのではなく、県立大学の学生の就職先となるような業種・業態の企業に対して、ヒアリング等で統計を取って、データとして活用し、取組に反映させていくと、企業側としても繋がっている、と感じられるのではないだろうか。

- 企業回りを行い、県立大学の売り込みと同時に企業がどのようなことを求めているか聞いて回っており、その内容を基に検討を行っている。

最近では、ある企業から相談を持ち掛けられ、理事長以下教員数名と社長とで、どのようなことが求められているのか、何ができるか話し合う場があった。特に、ここ数年は、このような企業との関係構築に力を入れている。

- 令和4年度にはSPARC事業で企業へのアンケート調査を行っており、どのような知識・技能・態度が求められるかを調査した。基礎能力を十分満たしていることが、専門的な能力よりもニーズが高いことや、文理融合で幅広い知識を持っている学生が必要という意見をいただいた。そして、これらの調査結果を反映したものが、SPARCの共通カリキュラムとなっている。

## 【まとめ】

- ◆ 評価書の原案については、素案のとおりする。

### (2) 第4期中期目標（素案）等について

- 中小企業は、人材が少ない中で、技術だけではなく、人間力が高い人材が必要となってくることから、DXを推進していくに当たっては、中期目標（素案）に「人と人の関わりを重視した上で」と記述してあるように、こうした視点を持って中期計画を検討し、これに基づく取組を進めていただきたい。

- SPARCで文系DX人材の育成を目的にしているところで、国際文化学部の再編は、文系の中にデータサイエンスを入れた、いわゆる工学系のDX人材ではなくて、横断的なDX人材を育成するというもので、ひと・まち（文化・歴史、産業など）、を理解した上で、DXを展開できるような人材を育成することが、大きな目的である。委員の仰るとおりで、どの分野においても重要であることから、しっかりと育成していきたいと考えている。

- ◆ 県立大学がDXを実践するときに、教員に限らず、事務職員にとってもやって良かったといえるようなDXとなるよう、何か考えがあれば聞かせてほしい。
  
- 県立大学の教育・研究・地域貢献、そして、大学運営・経営にDXの要素を取り入れるよう、DX・IR推進室というチームを設置して検討を進めている。何をデジタル化し、どう使ったら良いのかを考え、それを大学改革に結びつけるというのは、時間がかかると思うが、教職員で、実際に使ってみて、効果が実感できるような取組を進めていきたいと考えている。
  
- 高大連携と高大接続の推進については、対象を附属高校に限らず、他の高校も含め、県立大学に進学したいという生徒たちに、ある程度絞って取り組むのか、それとも、他の大学に進学を希望する生徒たちに対しても取り組むのか、方向性を聞かせてほしい。
  
- 高大接続については、学内に高大連携推進室を設置したので、附属高校だけではなくて、その他の県立の高校、それから私立の高校との連携を実際にやっていきたいと考えている。
  
- 附属高校を基軸とした連携については、本学がある高校と附属化をするということは、他の大学や他の高校においても、連携の一つのモデルの形になると考えている。附属高校という一つに特化した連携ではあるが、内容はモデル的な意味合いで、他校や他大学の参考になるような活動をしてもらいたいとの御希望を聞いているので、広い意味、狭い意味の両方を狙いながら、県に唯一の県立大学として、県全体を考えた連携ということを進めて行きたいと考えている。
  
- ◆ 県立大学の取組が山口県のモデルとして、他の大学等にも普及していくと良いと思う。
  
- 施設利用については、大変立派な施設が現在も建設中であるが、地域の共生の拠点として有効利用するために、具体的にはどうしているのか。
  
- 地域の住民と学生が交流したり学んだりする、南キャンパスの「地域共生センター」内にある「Yucca」の機能を、北キャンパスに移行するとともに、この他、オープンスペースや展示スペースを設け、地域の方との交流や、学生の発表ポスターや、教員の研究成果の発信などを充実できるようにしたいと考えている。第4期では第3期以上に、地域の方と県立大学の学生、教職員、或いは他大学など県内の様々な方との交流の機会を増やし、共同事業を増やしていきたいと考えている。

- 中期目標（素案）に財務内容の改善に関する目標があるが、予算編成において、物価がどんどん高騰している中、全体的な経費のどの部分を抑制していく考えなのか。
- 予算は必要なところに措置し、不要なところは落とす、という観点から編成することになるが、物価高騰等については、今回、光熱水費に対して、県の支援があったように、基本的には、自己資金や県の運営費交付金で賄うことになることから、一般的には、事業費を抑えて、その財源によって対応せざるを得ないと考えている。
- 中期目標（素案）は、財務内容の改善に関する目標を掲げ、中期計画（骨子案）では、予算編成の合理化と予算執行の適正化に関して記述されているように、財務内容の改善に関する目標を達成するために、着実な取組を行っていただきたい。
- ◆ 将来構想を踏まえ、中期目標（素案）は「地域と共に未来を創る」こととしており、第4期は、そのための具体的な仕組みづくりに足を踏み入れる重要な期間になると考える。また、中期計画が掲げる達成水準の設定に当たっては、評価できる部分を発信していくなど、数値による設定を積極的に考えていただきたい。

## 【まとめ】

- ◆ 各委員から多くの御意見をいただいたところであり、審議事項については次回への継続審議とする。

(3) 公立大学法人山口県立大学が行う出資等に係る不要財産の納付に関する意見について

- ◆ 学生から何か意見等があったか。
- 日頃、学生は北キャンパスに行っているのと、体育館や厚生棟は残るということもあってか、特に学生からの声は出てきていない。
- ◆ 解体の時期は決まっているのか。

△ 令和6年度から解体していく予定としており、現在は、そのための設計等の解体に向けた準備をしている。なお、D館については、県の合同庁舎に入っている県の関係団体に移ってくる予定となっており、解体せずに、県の方で使用する予定と聞いている。

【 まとめ 】

- ◆ 出資等に係る不要財産の納付を申請のとおり認可することを適当と認める。

以 上